

## 議長定例記者会見 会見録

日時：平成25年1月9日10時30分～

場所：全員協議会室

- 1 冒頭の発言事項  
新年を迎えての抱負について
- 2 発表事項  
みえ現場 de 県議会「ものづくり産業振興」の開催について
- 3 質疑項目  
発表事項に対する質疑について  
地方六団体による政府への要請活動について  
新しい政権に対する所感について  
外交防衛問題について  
式年遷宮について  
地方公務員の人件費の削減について

- 1 冒頭の発言事項  
新年を迎えての抱負について

(議長)おはようございますというか、新年明けましておめでとうございます。昨年、皆様方大変にお世話になりましたこと心から感謝申し上げます。また本年も引き続きよろしく願いをいたしたいと思っております。発表事項に入る前に、私の方から、新年を迎えての抱負を少し述べさせていただきます。年末にですね、安倍政権が発足を、新たな閣僚が誕生したということ。それに伴って、どちらかと言えば閉塞感漂っていたこの空気がですね、少し明るさを取り戻したのかな、そんな感じがするわけでありませう。といいますのも、選挙のですね、解散決定された時の安倍総裁から金融緩和、それから円高是正というような発言があってからですね、株式市場などでも非常に活気がでてきた。この2、3日下がってますけども、それまでですね、8600円台ぐらいだった日経平均が約2000円ぐらい上がったと、そんなようなことであります。元気が出ることは良いことで、これを弾みにですね、今度は実体経済に伴ったそんな強い経済が復活すればな、そんな気持ちでいっ

ばいであります。それから、1月4日の伊勢神宮の参拝でありました。たくさんの方の参拝客の方が安倍内閣総理大臣をはじめですね、閣僚の皆さんを温かく迎えてもらっていたのが非常に印象的でありました。ただ、記者会見で総理の年頭の抱負などをしゃべられたんですけども、記者さんたちの代表から質問を受けて、後ですね、それぞれの記者さんたちの質問は受けなかったということがありました。あれは歴代の内閣の中でもですね、だいたいあそこで「他にありますか」ということをやるんですが、受けられなかったというのは非常に残念だったですね。そんなふうに思いました。それとあと、選挙の前の安倍当時の総裁のですね、勢いからすると、トップリーダーになってからのですね、発言というのが少しトーンダウンしたのかなというような感じがしました。防衛とか外交とかですね、そんな意味で少しトーンダウンしたのかな、いたしかたのないことだというふうに思いますが、そんな感じを受けました。年末年始の印象は以上であります。

昨年ですね、12月26日に先ほども申しましたように、第2次ですね、安倍晋三内閣が発足をしてですね、県内から田村憲久氏が厚生労働大臣に初入閣されたということで非常に私も喜んでおるところでございます。新たな体制による国政運営が始まったということでもあります。新政権では、日本経済の再生を最優先に、平成25年度当初予算案と連動して、大規模な補正予算案の編成が進められておるところであります。防災・減災対策や中小企業支援や雇用対策など、国民が安全・安心に暮らせる社会の構築に向けた予算編成となるよう期待するとともにですね、十分な地方財源を確保しつつ、当初予算を速やかに編成することで、地方の行財政運営に支障を招くことがないように望んでおるところでございます。また、わが国においては、経済対策以外にも、社会保障と税の一体改革やエネルギー問題など、今後の日本の進路を大きく左右する諸課題が山積をしております。これらはですね、地方行政にとっても大変重要な事項であり、新政権におかれても、国と地方の協議の場を通じてですね、地方の意見にも十分配慮しながら進めていただくことを期待をいたしておるところであります。さて、今年は20年に一度の伊勢神宮式年遷宮がございます。多くの方々が来県されるこの機会に、三重のさまざまな魅力が広く認知され、県内への観光客がさらに増加するなど、本県全体の活性化につながればと期待もいたしておるところでございます。来週17日には「式年遷宮を契機とした地域の活性化」をテーマにトップセミナーを開催いたしますが、県議会としても観光振興に大いに注目をしていきたいなとそんなふうに思っております。最後になりますが、17日には本県議会が開会をし、選挙区調査特別委員会の設置も予定されております。会期は12月20日までの338日間となり、年間を通して議会活動が可能となるため、執行部の行政活動を継続して監視するとともに、県政の諸課題について随時会議を開催し、活発な議論を行っていき

いと考えておるところでございます。通年議会の導入が県民サービスの向上につながるよう、議員の皆様とともに、一層職務に精励する所存でございますので、皆様方のご理解ご協力のほどをよろしく願いをいたしたいと思ひます。以上で私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。なお、今年最初の記者会見でもございますので、副議長からもご挨拶をお願いしたいと思ひます。

(副議長)あらためまして、あけましておめでとうでございます。旧年中は大変お世話になりました。本年もどうぞよろしく願い申し上げる次第でございます。私の方からは、広聴広報関係を中心にご挨拶をさせていただきたいと思ひます。ご存じのとおり、昨年5月に副議長に就任させていただきながら、議長補佐役として、議会運営に努めてまいりました。その中で特に広聴広報会議の座長として、県民の皆様が開かれた議会を目指し、「県議会だより」や「県議会新聞」の発行、あるいはテレビやインターネットなどを通じた情報発信に努めてきたところでございます。このうち、「県議会だより」の発行に関して、現在執行部では、「県政だよりみえ」のテレビによるデータ放送が検討されております。広聴広報会議としましても、その情報発信の手法については大いに注目をしているところでもございます。さて、県民の皆様のご意見を県議会へ反映させる広聴の取り組みを充実させるため、「みえ現場 de 県議会」を、昨年10月の開催に引き続き、2回目として、本年2月1日に四日市で開催することを予定しております。後でもう少し詳細を述べていきたいと思っております。私としましては、このような取り組みを通じ、いただいたご意見を、今後の県議会の議論に反映させていきたいと思っております。これからも多くの県民の皆様が、県議会に関心を持っていただけるよう、広聴広報機能の充実により一層努めてまいりたいと考えておりますし、また本年は1月17日から通年議会、最初の年ということになりますし、また、大型補正、新年度予算、等々大切な課題が盛りだくさんでございます。引き続き議長を支えて、しっかりした議会運営をし、元気な三重県づくりに努めていきたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

## 2 発表事項

みえ現場 de 県議会「ものづくり産業振興」の開催について

(議長)それでは続きまして、みえ現場 de 県議会「ものづくり産業振興」の開催について発表させていただきます。具体的な内容につきましては、先ほど副議長が言われたようにですね、広聴広報会議の座長である舟橋副議長から説明させていただきます。

(副議長)先ほど申し上げましたとおり、今年度2回のみえ現場 de 県議会を

開催させていただきます。ものづくり産業振興をテーマとして、2月1日金曜日に、四日市市の高度部材イノベーションセンターで開催をいたします。ものづくり産業は、県民の暮らしを支える産業の一つとして、北勢地域を中心に重要な産業あるととらえております。本県において、昨年7月に「みえ産業振興戦略」が策定されたことや、これまで北勢地域で開催が無かったこともあり、今回のテーマとさせていただきます。当日はテーマに関係する企業関係者や教育研究関係者等12名の参加を予定しております。意見交換を行い、20名まで傍聴も可能となっております。13時30分から14時30分まで現場を見ていただいて、そして14時30分から16時30分まで2時間、その12名の方々と意見交換をする時間設定をさせていただきました。報道機関の皆様におかれましては、事前の情報発信や当日の取材について、ご協力をいただきますようお願いいたします。以上です。

### 3 質疑応答

発表事項に対する質疑について

(質問)現場で県議会なんですけど、傍聴20人って事前の申込とかがっているんですか。当日その場で記名して入れるかこうですか。

(副議長)事前申込は必要ありません。当日来ていただければ結構です。

(質問)企業関係者と教育関係者とあるんですが、主だった人どなたか何人が教えていただければ。

(副議長)三重県の中小企業団体中央会の佐久間裕之会長さん、それから教育関係では三重大学の社会連携担当学長補佐の、西村訓弘さんなどに来ていただくことになっております。

地方六団体による政府への要請活動について

(質問)昨日の地方六団体の要望活動に行かれたと思うんですけど、その印象、感想をお願いします。

(議長)昨日は地方六団体で公明党の山口那津男代表、あと井上幹事長、政調会長3名の所へ要請活動に行きました。その後、自民党の本部に行きまして、副総裁をはじめとして三役のところへ要請活動に行ったのであります。その後、総理官邸に行きまして、安部総理の所へ行って、要請活動を地方六団体としてやってきたということでありまして、山田知事会長の方から、地方の抱える全般

的な問題、例えば防災、減災をはじめとしてですね、あと地方の中小企業の振興策、それから農林水産業の振興、そういったことについても要請活動をしてきました。あとですね、市長会、町村会からもですね、要望があったのは、自動車取得税と自動車重量税の廃止は困ると、地方にとって恒久的な財源でありますから、廃止しないようにとこういうような要望は行ってきました。私の方からはですね、防災についてしっかりとした予算処置をしてもらいたいということは述べさせていただき、これは総理にももちろん言ったんですが、補正予算並びに本予算でしっかりとしたですね予算付けをしてもらいたいとこういうふうに要望はさせていただきました。例の伊勢湾台風後にですね、作られた堤防などはおそらくもう耐用年数が来ているんじゃないかな、そんなようなことですから、しっかりとした国土強靱化についてですね、しっかりとした予算を付けてもらいたい。それから東海・東南海・南海、いわゆる南海トラフ3連動が起こるだろう確率が80%と言われてますから、これについてのですね政府のしっかりとした支援をお願いしたいということを述べさせていただきましたし、中小企業の振興策について、特に具体的にですね全国の地方都市の商店街、このシャッター街と言われてもう10数年経つんですが、これについての起死回生策というのがなかなかそれぞれの政権で打たれてこなかった。こんなことも併せてですね、しっかりとした中小企業振興策についてお願いしたいと、この2点は私の方から述べさせていただいたわけであります。それと、市議会議長会からは、知事会会長もそうなんですけども、例の地方公務員の報酬の件についてですね、要望では今から政府が国家公務員の給料削減をやったから地方もやれと言うのは乱暴すぎるんじゃないかなというようなことを、知事会、市長会が総理にも申し上げたし、あと会見終わってからですね、官邸のあの1階の広場、ホールででもですね、各それぞれのマスコミの方々から知事会会長に対してですね、知事はああいうこと言われたけども、総理はどのような答えを言ってたんでしょうかとそんな質問が飛んでたように思います。総理は、地方公務員の給与削減については、党が判断するというようなことで、明確な答えというのはなかなか言われなかったように思います。菅官房長官もこの件に関してはですね、非常に明確に、やろう、やらないというようなことは言われませんでした。知事会の会長が一生懸命に言われてたのは、今この時期になって予算編成も遅れているにもかかわらず、この地方公務員のですね給与削減について今から現場で対組合交渉をすることによって、ますます予算編成が遅れていくと、そういう懸念があるというようなことも言われてましたし、なおかつ地方経済にですね、どちらかと言えば根幹をなす、基準になるようにですね、地方公務員の給与についてですね、今この時期にいろうということはいかななものなのかなというような、そんなことは市長会会長からも言われておりました。いずれにしても、三重県知事も言われておりますけども、非常に時期とし

てはあまりよくないんじゃないかなと、こんな感じがします。そんなようなやりとりがありました。

(質問) 地震対策について、総理から何か返答はありましたか。

(議長) 要望させていただきましたが、地震対策についてこのようになるというようなそんな具体的な話はありませんでした。

新しい政権に対する所感について

(質問) 副議長におうかがいしたいんですけど、議長は新しい政権に対して、経済をまず立て直すことへの期待感を示されたんですけども、副議長として今の新しくなった政権に対してどのような所感を持っておられますか。

(副議長) 去年の衆議院選挙の結果のいろんなマスコミの分析の中で、やはり国民の皆さんはデフレ脱却、経済再生というのを求めて投票されたというのが結構あったわけですから、その民意を受けて、今安倍政権が進めようとしていることに対しては、私たち地方議会の者としても大きく変わってくる話ですから、しっかりと見守っていかなければならないと思っていますけれども、この緊急、非常に短い時間に大型補正を受ける立場としては、果たして的確適正な予算の使い方ができるのかなという、予算を作っていくことが可能なのかという心配と、当然のことながら長いスパンで見たときにこれに対する公債費の問題をどう考えていくのかという心配、この2つをやっぱり危惧をしながら見守っていきたいと思っています。

外交防衛問題について

(質問) 外交と防衛の問題でトーンダウンされたという話がありましたけれども、おそらく竹島の日のことと、尖閣の公務員のことだと思うんですけども、具体的にトーンダウンされたという、議長、どういう点がトーンダウンされたと感じているのか。

(議長) 尖閣の問題などもですね、総裁の時はあの島に公務員を常駐させるというようなことを言ったとか言わないとか、そういうことがありましたけども、全く今の総理という立場からはですね、そんなような話というのはすっ飛んだのかなというようなことであります。どなたが総理になってもですね、近隣外交はとても大事なことです。その辺のところも配慮しながらですね、発言になったのかな、トーンダウンしてたのかなとそんな感じがします。それとあと、公務員。

(質問) ああ、あの、その尖閣の公務員と、竹島の碑の建設なんかもそうなんですか。

(議長) 竹島の話はこの前の総理の会見ではされなかったんじゃないですかね。もうご承知のとおり、額賀さんが韓国の新大統領の所へ行ってますから、そんな意味でいろんな努力をされながら、近隣諸国と友好関係を結んでいこうという、そんな感じはしますよね。

#### 式年遷宮について

(質問) 先ほどの冒頭の話の中で式年遷宮の話をしていましたけれども、あらためてその式年遷宮に向けて県議会として、たとえばその観光振興であるとかその辺りの意気込みとか方針とか。

(議長) そうですね。この17日に開会をします。議会を開会します。その後ですね、式年遷宮を通じて地域振興策について皇學館大学の先生に来て頂いて、今後の取り組みについてレクチャーしてもらおうということであります。意外とわれわれ伊勢志摩に住む人間にとってもですね、式年遷宮とはなんぞやということでもしっかりとした考え方ってなかなか持ってられない方が多いと思うんです。まして北勢の方々や紀州の方々がですね、まして県外の方々が式年遷宮といってもなかなかどんなもんなのと。20年に一回そのお宮、社を替えるだけなのかということじゃないそういったところをですねレクチャーしていただきながら議会としてこれから県外へも発信していこうと、こういうことあります。もちろん知事もですね、先頭に立って式年遷宮を契機としてですね、観光振興についてこれから力を入れていこうと思うし、議会側も精いっぱいこの件についてですね、議員が共有しながら伊勢志摩だけじゃなくて三重県全体が振興できるように取り組んでいきたいな、そんな気持ちでいっぱいです。

(質問) レクチャーしていただく皇學館大学の先生は櫻井先生ですか。

(議長) 岡田登先生です。昔、今から何年前でしょうか。伊勢湾架橋の時にですね、先生に来ていただいて鳥羽で講演していただいたことがあるんですね。で、その時に非常にいわゆる伊勢を中心とした江戸時代から始まって現在に至るまでの地域振興策についてレクチャーしていただいたことが思い出というか頭の中にあるんですね、今年はぜひとも岡田先生に遷宮の年ですから議会議員の皆様方の前でですねレクチャーしてもらおうと、こんなことで要請させていただいたところ、快く引き受けていただいた、こんなことあります。

地方公務員の人件費の削減について

(質問) 公務員の人件費の削減のことにに関して、今度は副議長のご見解をおうかがいしたいんですけども、国も削減しているから地方の公務員も人件費削減に付き合うべきだという論理に対してどのようにお感じになっているか。副議長お願いします。

(副議長) それぞれの地方公共団体はこの十数年にわたってそれぞれの環境に応じて、労使が結論を出して随分汗をかき、血を出してきたというように思うんです。そうした経過を踏まえずに国がこうしたからお前らもそうせいというのはあまりにもむちゃくちゃな話だというふうに私は思っています。確かに厳しい環境の中ですから、それぞれがもう一步の努力を求められるのはやむを得ないとは考えますけれども、それはそれでそれぞれの地域の実情と労使における話し合いで結論を見いだしていただきたいと思います。7.8%切ったから交付税で処理するで、お前ら今まで10%切っていたのを17.8%切れ、というのはいかにもむちゃじゃないですか。

(議長) ありがとうございます。また今年もよろしくお願いします。

( 以 上 ) 10時58分 終了